

阪神電車の  
「こんなこと、やっています!」

# 沿線活性化活動レポート

沿線活性化の  
取り組みとは?

阪神電車では、だれもが「住んでよかった」「働いてよかった」「訪れてよかった」と実感できる魅力あふれる沿線を目指して、地域に密着したさまざまな活動を行っている。今回は、その中から1つをピックアップし、詳細をレポート!

阪神電車も  
取り組む

## 尼崎のまちを盛り上げるプロジェクトが進行中!

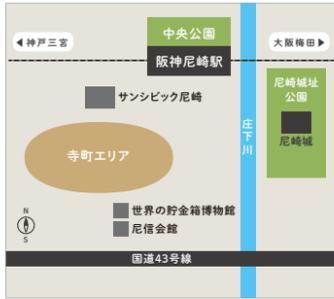
阪神電車の車庫があり、大阪梅田、神戸三宮、そして大阪難波を経由して奈良にも行ける便利な阪神尼崎。最近では、尼崎駅の南側はお城が出現して公園が整備されるなど、歴史的建造物も立ち並ぶ注目エリアに。このエリアで進む活性化プロジェクト3つをピックアップ!

### プロジェクト1

#### 寺町・開明町エリアを中心に活性化させる「てらまちプロジェクト」の様々な取り組み



阪神電車と尼崎信用金庫は、「尼崎が「住み続けたい」「訪れたい」「移り住みたい」「働きたい」なまちになるきっかけを、市民や地元の方々と一緒に生み出していく「てらまちプロジェクト」を実施。尼崎の歴史や文化を楽しみながら学べる体験型イベントをはじめ、より多くの方に情報を発信するためのWEBサイトの開設など、積極的に地域活性化に取り組んでいる。



てらまち かいめいちょう  
**寺町・開明町エリアとは?**  
尼崎駅から南へ3分ほど歩いたところにある、重要文化財などを多く所有する11のお寺が建ち並ぶエリア。石畳やレンガ塀が続く様子は江戸時代の城下町を思わせ、歴史の趣を感じながらのお散歩が楽しめる。

### 3つの柱でプロジェクトを進行中

#### ●「住み続けたい」ために

今まで知らなかった尼崎の歴史や文化を知ること、より地域への愛着が湧くような「気づきと再発見」のワークショップを開催。なかでも「てらまち学」は、尼崎ご当地講談(プロジェクト3参照)が生まれるきっかけに!



#### ●「移り住みたい」「働きたい」ために

寺町・開明町周辺にある空き家を利活用した拠点づくりを推進。一方、その空き家利活用のリサーチを兼ねた「てらまち歩き」イベントも開催。まちを巡ることで、新たに魅力的なスポットを発見できたとか。



#### ●「訪れたい」ために

いろいろな地域から訪れてもらうために、尼崎の魅力をもっと知ってもらうイベントなどを考える「てらまちワークショップ」を開催。最終的には、なんと6つものプロジェクトが誕生した!

### プロジェクト2



尼崎市立歴史博物館

#### 尼崎城本丸跡に建てられた昭和初期の建物が歴史博物館にリニューアル!

昭和13(1938)年に尼崎市立高等女学校の校舎として建てられた歴史的建造物が、2020年10月、歴史博物館として生まれ変わった。2階の常設展示や3階の企画展示、地域イベントなどを通して、尼崎の歴史遺産を後世に伝える役割を担っていく。また、内装は全面的に改修したものの、玄関前の2本の円柱や1階ホール、八角形窓などは竣工当初のままで、昭和モダニズムの雰囲気を楽しめる。

●尼崎市立歴史博物館  
☎06-6489-9801 ●尼崎市南城内10-2  
●9:00~17:00(入館は16:30まで)  
●月曜休(祝日の場合は直後の平日が休)  
※12/29~2021/1/3は休 ●尼崎駅 徒歩約10分 ●http://www.archives.city.amagasaki.hyogo.jp/museum/

#### 企画展を開催

2021年1月9日(土)~3月28日(日)の期間、3階展示学習室で企画展(観覧無料)「むかしのくらし むかしの小学校」が開催される。尼崎に所在した家電メーカーが昭和30年代に製造した扇風機など、少し昔に使われていた暮らしの道具を展示。また、昭和8年の尼崎第三尋常小学校の様子を撮影した貴重な記録映像も上映されるので必見!



### プロジェクト3

※このイベントは、2020年11月7日(土)に開催しました。



待望の再演!

#### 大好評の「てらまち学」から生まれた尼崎ご当地講談会

てらまちプロジェクトの取り組みの一つ「てらまち学」をきっかけに制作されたのが、尼崎城主 青山幸利を主役にした「尼崎ご当地講談」。2018年の初演以来、「もう一度聞きたい!」と多くの要望を受け、今回の再演が決定した。登壇するのは、各種メディアで大活躍の講談師・五代目 旭堂小南陵さん。さすがの実力で皆を江戸時代の世界に引き込んだ。また、この講談を作成した脚本家・大谷邦郎さんと尼崎市立歴史博物館職員 河野未央さんによる制作秘話や歴史解説も楽しめ、あっという間の1時間だった。

※講談:独特のリズムや語り口で、歴史にちなんだ読み物を語る伝統芸。

#### 会場は大覚寺 能舞台

現存する尼崎最古の名刹で、推古8(600)年に聖徳太子が命じて造らせたと伝わる。2月3日の「節分祭」では能舞台上で「大覚寺狂言」が上演され、多くの人で賑わう。



#### ●青山幸利って?

江戸時代前期、尼崎藩青山家2代目藩主としての役割をよく果たした傑物として知られる。大坂城の火災に一番に駆けつけたり、尼崎城を見ながらよく感動の涙を流したなどの逸話が残る、人情味あふれる魅力的な人物だったという。

#### 講談会に参加された4名に直撃インタビュー!

講談師  
五代目  
旭堂小南陵さん

脚本家の大谷先生をはじめ、様々な方のご縁のおかげで、「尼崎ご当地講談」を口演することになりました。この講談の主役となる青山幸利は、知れば知るほどとても魅力的な人です。日本全国を見ても、こんな面白い藩主はなかなかいないですし、まさに「尼崎の観光資源になるお殿さま」と言えるかも(笑)。このように藩主をはじめとして、尼崎には魅力的な事柄がたくさんあります。そんな魅力再発見の一端を、今回の講談が担えたら嬉しいですね。

尼崎市立歴史博物館  
職員  
河野未央さん

「尼崎ご当地講談」の歴史監修を担当しましたが、講談内の青山幸利公の逸話は、元となる史料があります。尼崎で作られたお蕎麦が大好きだったとか、節約家で焦げた掛け布団を使っていたけれど、大坂城守衛のために金銭を惜しまなかったなど、青山家の家臣が手掛けた「青大録」という編纂物に記されているんです。そんな逸話を、小南陵先生がまるで目の前に映像が浮かんでくるような語りで披露してくださり、初演の時も今回も泣けるほど感動しました。

尼崎市在住の  
Kさん

元々講談に興味があり、野外で、しかも無料で聞けるというチャンスはなかなかないので、今回参加しました。青山幸利城主の様々なエピソードについて、分かりやすくユーモラスに語られて、グイグイ引き込まれましたね。人物の演じ分けや幸利の妻の繊細な語りなど、小南陵さんの芸の凄みを感じました!

開明町在住の  
Sさん

私は開明町で生まれ育ちました。今は開明町婦人会の会長として「もっと寺町・開明町を盛り上げたい、開拓したい」という思いで活動を行い、今回のような催しにも積極的に関わっています。地元の頑張りや尼崎を盛り上げ、子どもたちの明るい未来に繋がると信じて、これからも活動していきたいですね。